

浴衣の地色に関する研究

知野 恵子* 内山 道子** 寺田 恭子** 渡邊 芳道***

The Study of the Ground Color for Yukata

Keiko CHINO, Michiko UCHIYAMA, Kyouko TERADA, Yoshimichi WATANABE

1. はじめに

浴衣が夏のファッションアイテムとして、若い人の間で人気を呼んでいる。お祭りや花火見物には「浴衣」という夏の風物詩として定着したことはうれしいことである。浴衣は安価で気軽に贅沢な気分を味わえるきものとして、多くの人に受け入れられている。また、一方では高級素材や伝統技法による染色も受け継がれ、多種多様な浴衣がみられる。

江戸時代に普及した浴衣は白地や藍色が定番であり、藍とよばれる植物染料を用いて染め上げられた物が中心であった。しかし、明治末期には化学染料の発展により染色方法が変化し、最近では色とりどりの浴衣が豊富にでまわり、より一層華やかさを増している。浴衣の生地は木綿が主体であり、染色堅牢度が非常に高いため、色彩的にも日本の夏の風土によくとけ込み、一層清涼感をあらわしている。

本研究は浴衣の印象を強く受ける地色に注目し90年代から現在に至る12年間の浴衣の地色傾向について考察した。

2. 研究方法

(1) 分析資料

きもの専門誌「美しいキモノ」夏号 出版社 婦人画報社

(2) 分析期間

1991年～2002年 12年間

(3) 分析項目

掲載された婦人浴衣453点の地色

(4) 分析方法

資料の視感測定

基準となる色は、日本色研配色体系 Practical Color Co-ordinate System (略称 PCCS) ハーモニックカード201を使用した。カードは色相番号とトーン(色調)の略記号からなり表1、

*服飾美術学科 ファッション造形3研究室 **服飾美術科 第3被服構成研究室

***服飾美術科 色彩デザイン研究室

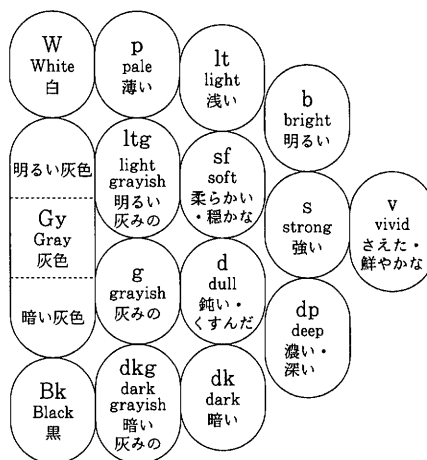
表2はその一覧である。測定には直射日光や室内照明をさけ、北窓の自然光のもとでPCCSカードと資料を比較し視感測定を行った。測定には個人差が出るため複数で確認し判定を行った。

表1 PCCS色相

色相番号	色相名	色相番号	色相名
1	purplish red	13	bluish green
2	red	14	blue green
3	yellowish red	15	blue green
4	reddish orange	16	greenish blue
5	orange	17	blue
6	yellowish orange	18	blue
7	reddish yellow	19	purplish blue
8	yellow	20	violet
9	greenish yellow	21	bluish purple
10	yellow green	22	purple
11	yellowish green	23	reddish purple
12	green	24	red purple

表2 PCCS色調(トーン)と各トーンの位置

略記号	トーン名	略記号	トーン名
v	vivid	p	pale
b	bright	ltg	light grayish
s	strong	g	grayish
dp	deep	dkg	dark grayish
lt	light	W	white
sf	soft	Gy	gray
d	dull	Bk	black
dk	dark		



3. 結果考察

(1) 年代別色相の出現数

表3は色相番号の年代別出現数を表したものである。91年～94年は色相番号18、95年～98年は色相番号19、99年は色相番号18、2000年は色相番号19、2001年・2002年は色相番号18の出現数をもっとも多く、ブルー系、パープリッシュブルー系の出現数が多く認められた。次いで無彩色の出現数が多かった。

表3 年代別色相の出現数

色相	年代												(N)
	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	
1		1	1				1	2			1		
2	1	3				1		2	3	2	1		
3						3	1						
4						1		1	1		1	1	
5		1											
6	2		1	1		2	2	2	1	2	1	1	
7		2		2	1	3			1	1			
8	1	1	1		1	1	2	1	2	1	1	3	
9		4	1		2		1	1	1		3		
10		1				1		1	2	1		1	
11					1						1		
12		1		1		1					1		
13													
14	2		1	2	1	1				1			
15		1				1							
16	1		4	2	1	3		1	1			1	
17			6					4			1		
18	17	14	11	6	3	7	6	3	12	12	9	10	
19	5	5	4	2	10	14	11	8	5	14	7	7	
20		1		1	1	3	1	4	1	3	6	9	
21			1				1		1			1	
22						2	1	1	2		1		
23		1									1		
24			1			4		2		3	2		
N	7	12	3	4	1	6	7	5	7	5	2	7	

(2) 年代別トーンの出現数

表4は年代別トーンの出現数を表したものである。91年はdkg（ダークグレイッシュトーン）、92年はW（ホワイト）、93年～95年はdk（ダークトーン）、96年・97年はdp（ディープトーン）

表4 年代別トーンの出現数

トーン	年代												(N)
	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	
p	1		1			3	1	4	9	2	9	9	
lt	2	2	2			4	3	6	4	4	7	4	
b	2	2	4	1		1		1	1		2	2	
v		3	3		1		1						
s	2	3					5	3	1	9	2	2	
dp	3	8	6	1	5	12	6	5	3	9	3	8	
dk	4	4	8	8	7	8	2	2	4	6	6	5	
dkg	10	7	3	2	1	5	4	6	6	7	4	3	
g	1		2			2	1		1		1		
ltg	1	2	1	4	1	7		1	1	1	1		
sf	1	1	1			5	2	2			2		
d	2	4	1	1	6	1	2	3	3	2		1	
W	5	10	3	1		3	5	4	4	5	1	5	
Gy		1		1			1	1				1	
Bk	2	1		2	1	3	1		3		1	1	

ン)、98年はlt (ライトトーン)・dkg (ダークグレイッシュトーン)、99年はp (ペールトーン)、2000年はs (ソフトトーン)・dp (ディーブトーン)、2001年・2002年はp (ペールトーン)であった。図1の通り91年から97年はdp・dk・dkgのshade (暗青色)といわれる低明度トーンの出現が多いのに対し、98年以降はp・ltのtint (明清色)といわれる高明度トーンの出現が認められた。浴衣の地色はdk・dkgなどダークなシェイドと明るいチントの2方向がみられた。

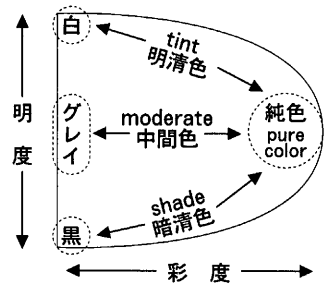


図1 トーンの概念

(3) 色相・トーンの出現数

色相・トーンの12年間の出現数を集計したものが表5である。最も多かったのが無彩色のW (ホワイト)、次いでdkg18, dp19, dk18, dk19, dp18の順に出現数が多かった。

表5 浴衣地地色のトーン・色相出現数

色相番号 トーンの略記号																									(N)	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	N	合計
p	1	3		1		3		5	4	4	1	1					1	4	1	3	1	3	1	2	39	
lt								5	1	1						2	4	7	8	2	1	1		6	38	
b	1			1				1	1							1		6	3	2					16	
v		2							2								1		3						8	
s	2	1					2												4	15	2			1	27	
dp	2	5	3				1												16	35	2	1	1	1	69	
dk		1				1				1	1			2	1	7	2	22	18	7		1			64	
dkg		1		1						1		1		3		1		39		10		1			58	
g						1								1	1	2			2		1				8	
ltg				1	1	7	6	1		1				1					1	1					20	
sf				1		2		2	1							1		5		1			1		14	
d			1			1	1	1	4			1		2		1	1	6	6	1					26	
W																									46	46
Gy																									5	5
Bk																									15	15
合計	6	13	4	5	1	15	10	15	13	7	2	4	0	8	2	14	11	110	92	30	4	7	2	12	66	453

(4) 系統別色相の割合

表1をもとに色相番号を系統別に区分すると、色相番号1～3のレッド系、色相番号4～6のオレンジ系、色相番号7～9のイエロー系、色相番号10のイエローグリーン系、色相番号11～13のグリーン系・色相番号14～15のブルーグリーン系・色相番号16～19のブルー系・色相番号20のバイオレット系・色相番号21～23のパープル系・色相番号24のレッドパープル系・そしてさらに無彩色を加え11に分類することができる。

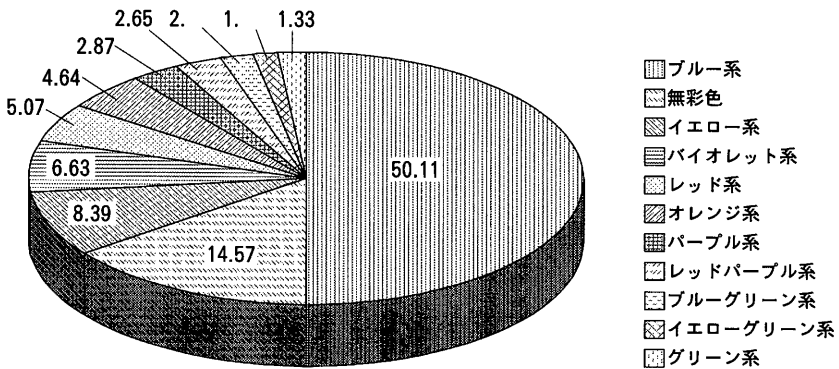


図2 系統別色相の割合 (数字は%)

図2は系統別色相の割合を示した図である。ブルー系で50.11%と半数を占め次いで、無彩色の14.57%であった。以下イエロー系、バイオレット系、レッド系、オレンジ系、パープル系、レッドパープル系、ブルーグリーン系、イエローグリーン系、グリーン系と続き出現数は少ないが多様な色相の浴衣が見られた。

4. まとめ

浴衣の印象を強く受ける地色に注目し、90年代から現在までの12年間の浴衣の地色について「美しいキモノ」に掲載された浴衣の地色453点を分析した結果、無彩色のW（ホワイト）の出現数が最も多く、ブルー系で低明度トーンのdkg（ダークグレイッシュトーン）18、dp（ディープトーン）19、dk（ダークトーン）18、dk19・dp18の順に出現数の多いことがわかった。これらの地色を日本の伝統色名（大日本インキ化学・第4版）におきかえてみると、dkg18は墨色（すみいろ）、dp19は濃青（こんじょう）、dk18は鉄紺（てつこん）、dk19は紺色（こんいろ）、dp18は濃藍（こいあい）と呼ばれている色である。これらのブルー系の出現数は50.11%で半数を占めている。次いで無彩色が14.57%であった。この2系統の色で全体の約65%をしめ浴衣の地色の中心であることがわかった。その他残りの35%には種々さまざまな地色がみられた。

浴衣を別名藍衣と言われるように、浴衣と藍染は切っても切離せないものである。今日では化学染料の発展により天然染料で染色した浴衣が年々減少しているものの、日本の伝統染色としてこれからも浴衣に受継がれていくきもの文化の一翼を担っている。

藍色とは藍で染めた色であり、青より濃く、紺より淡い色といわれている。藍染の染料は大きなかめに幾本もたてておき、布をそのかめに順々に浸していくことによりだんだん濃く染め上がっていくのである。1～2本の藍がめをくぐっただけの淡い藍の青をかめのぞきといい、かめをくぐらせる回数によって浅葱、缥、藍、紺、紫紺、鉄、納戸などさまざまな青色をかもしだしてくれる。

日本人の青色に対するイメージは藍色に重なる部分があると思われる。古代より人々は美しい色にあこがれをもっているが、空や水の美しさを表現するために青はなくてはならない色である。

江戸時代の浮世絵師である安藤広重の描いた青には藍を使用したといわれており、この青は世界的にも「広重ブルー」といわれるほど有名であり、日本の代表的な色でもある。

今回の調査で、浴衣の地色は多種多様な色がある中で、白、ブルー系が約三分の二を占めており、浴衣が日本の伝統色をまだまだ受け継いでいることをあらためて認識した。

最後に、多く出現した地色の浴衣を紹介する（図3～図8）。

参考文献

- 1) 美しいキモノ，東京，婦人画報社，1991 夏号～2002 夏号.
- 2) 渡邊芳道他：戦後の浴衣の軌跡に関する研究—着物専門雑誌における浴衣に関するテーマ分析，東京家政大学博物館紀要第6集，2001，p65～77.
- 3) 寺田恭子他：浴衣の文様に関する研究，東京家政大学博物館紀要第7集，2002，p57～69.
- 4) 大井義雄，川崎秀昭：色彩，日本色研事業株式会社，1998.
- 5) 江森康文他：色・その科学と文化，東京，朝倉書房，1982.
- 6) 染色の美と伝統 日本の藍，東京，NHK 出版，1994.
- 7) 田中千代：新・田中千代服飾辞典，東京，同文書院，1991.
- 8) きもの用語大辞典，東京，装道出版局，1991.
- 9) ファッション辞典，東京，文化出版局，1999.
- 10) 新村 出：広辞苑，岩波書店，東京，1998.
- 11) 金田一京助：新明解国語事典，東京，三省堂，1995.



図3 W (ホワイト)



図4 dkg 18



図5 dp 19



図6 dk 18



図7 dk 19



図8 dp 18